

流されず、騙されず、諦めずに奮闘しよう！

東海労働組合 新幹線関西地方本部



執行委員長 小林國博

組合員とOBの家族の皆さんと日頃から私たちを支援していただいている仲間の皆さんに新年の挨拶を申し上げます。旧年中は本当にお世話になりました。

私たちはこれからも安全で平和な社会を目指して、仲間の皆さんと奮闘してまいります。

本年もよろしくお願い致します。

昨年12月14日に行われた選挙で多くの国民は、何が何だか分からないうちに、憲法解釈をねじ曲げて集団的自衛権行使容認を閣議決定し、特定秘密保護法の施行まで行った安倍政権を「圧勝」させてしまいました。以降、安倍政権は平和憲法の「改正」や停止中の原発の再稼働をするための動きを加速しています。今後は「選挙に勝った」＝「国民に信任を頂いた」というペテンで更にやりたい放題の政治が行われることが予想されます。その犠牲者が誰になるかは言うまでもありません。

第二次世界大戦前、ドイツには「世界で最も民主的」と言われたワイマール憲法がありました。しかし、国家の多額な債務と超インフレに苦しんでいた国民の支持により首相になったヒトラーは、全権委任法案を成立させてワイマール憲法を葬り去りました。そして戦争への道を突き進んだのです。

「今日の日本の状況はあの頃のドイツに似てきていないか？」と戦争を知っている人達の間にはそんな悪夢が鮮明によみがえっています。将来、思想や言論が統制され、人間が人間を殺し殺されるような事態になった時、その責任の一端は私たちにあります。「なぜあの時にあんな選択・行動をしたのか？」と問われた時、「流された、騙された、諦めた」という言い訳は通用しません。日頃から会社やマスコミの扇動に乗せられることなく、真実を見抜く努力をしなければなりません。

昨年12月17日にJR東海会社は、多くの反対と慎重論がある中でリニア中央新幹線の建設工事に着手しました。今後その影響が下請け業者を含む現場労働者と地域住民に押し付けられることは言うまでもありません。

また、昨年6月に突然明らかになった鳥飼車両所基地内の井戸掘削問題は、多くの地域住民の反対と請願があったにも関わらず工事が強行されました。このことにより長年積み重ねてきた地域住民の皆さんとの信頼関係が水泡に帰したことは言うまでもありません。

政治や会社のやりたい放題に対してもの申し闘っている私たちに対する風当たりは益々きつくなることが予想されます。後悔をしないよう更に団結を強化し連帯の輪を拡大して奮闘しましょう。

